

SOUL

ナニヤロ 云鬼

AMAZING 1/72 SCALE AVIATION MODEL

OF THE

新納忠大/著

TADAHIRO NIIRO

1/72

大日本絵画

DAINIPPONKAIGA

SCALE





SOUL
OF THE
1/72
SCALE

スケールモデル

新納忠大／著
TADAHIRO NIIRO

大日本絵画
DAINIPPON KAIGA

前書き

INTRODUCTION

博物館に展示してあるような模型のように、実物に忠実に、精密な完成品を造ることができたら、きっとすごい達成感を得られるだろう——よし、頑張ってコツコツ経験を積んで、時間をかけて超精密な作品を作ろう——。

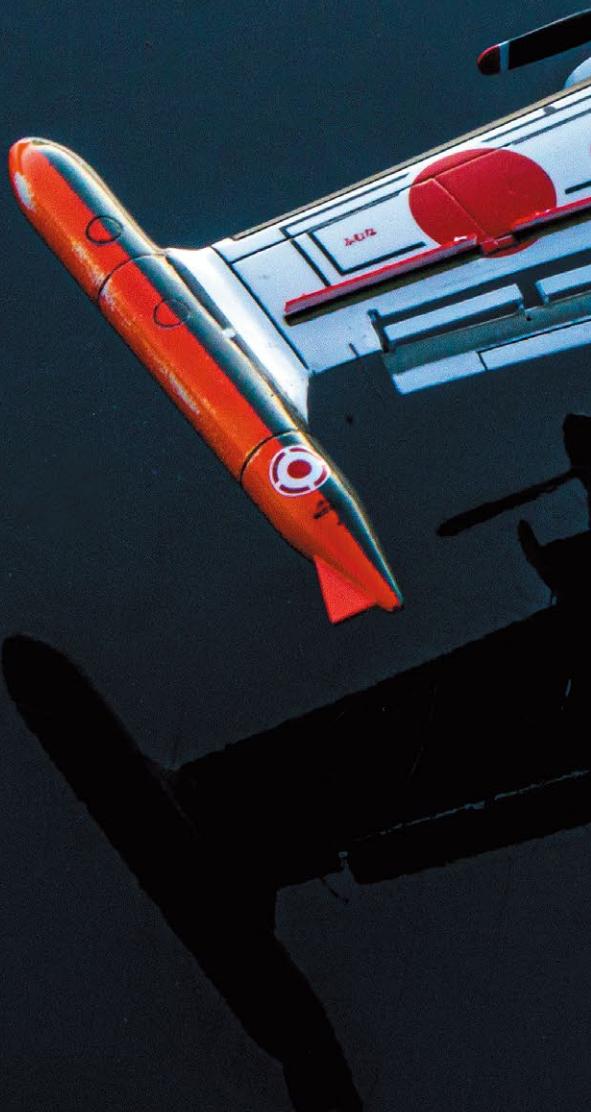
……という感じにならなかったのが、何を隠そうこの私です。なんとかして手間と時間をかけず、なおかつ完成した暁には少しでも満足感を味わいたい……。そんなズボラな欲求に対してまっすぐに取り組んだ結果が、本書に掲載されている機体たちです。とにかく早く、簡単に、そしてなにより戦国島津氏の戦いのように痛快な飛行機模型を作りたい。その一念でこれまでやって参りました。

痛快という点で言えばもうひとつ、1/72では見たことがない表現、無理だろうと思われることを勢いとパワーで解決したいという気持ちもあります。相手は所詮プラスチック。何度もやり直しは効くので、考える前に「チエスト！」とバーツを切ってしまう。関ヶ原における島津の退き口のような勢いとパワーで、いまだになんとかしております。

そう、勢いとパワーはすべてを解決します。島津日新公のいろは歌に「聞くこともまた見ることもこころがら みな迷なり みなさとりなり」という一首があります。聞いたものや見たものは、自分の心次第で迷いにも悟りにもなるというこの一首の通り、ネット上でたくさんの資料が簡単に見られる現在、それによって製作が進まないという事態はめずしくありません。そんな時こそ、勢いとパワーです。やりたいことは全部やる。武装を積んだ状態で各部のパネルを開いて分解状態になってるなんて、実機では絶対あり得ません。が、模型ならできるし、やりたいからやる。細かいことは気にしないし、深く考えない。この勢いとパワーによって、私は特にしんどくなることもなく、楽しくやっております。

そんな作り方なので、この本の解説文も全体的にユルくなっています。製作方法についても特に革新的なものはなく、先達のモデラー諸氏の作り方を踏襲しています。資料的にも全然参考にならないのが恐縮ですが、どうぞお楽しみください。3Dプリント技術や塗装法の発達によって、精密かつリアルな作品を生み出す方々が今後どんどん登場していくと思います。そういう新しい世代の方々の模型製作に、本書が一助となったら幸いです。

2022年 立春 桜島火口より 新納忠大





新納忠大
TADAHIRO NIIRO

198X年生まれ。桜島の中腹で、自然の厳しさと戦いながら様々なジャンルのプラモデルを作り育つ。高校生の時に作ったハセガワのトムキャットがきっかけで航空機に興味を持ち、航空機整備関係の学校に進学。だが、入学してから「自分が興味を持っていたのは実物の航空機ではなく、あくまで飛行機のプラモデルだった」ということに気付き、以降は模型作りのための知識と技能を身につけたい一心で勉強に励み、整備士資格を取得する。

社会人になり本格的に飛行機模型を作り始め、同時に実機の製造や整備に従事。特に整備に関わるようになってからは模型製作に反映できる情報が増え、それにより細部を再現した模型を作れるようになる。最初は年にひとつ完成品を作るのが精一杯だったが、最近はコツを掴んだことで年に4~5作は作れるようになった。『隔月刊スケールアヴィエーション』2021年1月号より連載「ナナニイの魂」を掲載開始。現在に至る

目次

CONTENTS

- 002 前書き
- 006 『ナナニイの魂』製作現場と作品を生み出すツール
- 008 三菱 MU-2S(ハセガワ 1/72)
- 022 ホーカー・ビーチクラフト U-125A 救難捜索機(ソード 1/72)
- 036 シコルスキー UH-60JII レスキュー・ホーク(ハセガワ 1/72)
- 050 ボーイング・バトル KV-107IIA-5(フジミ 1/72)
- 066 マクダネルダグラス RF-4E ファントムII(ハセガワ 1/72)
- 080 ノースアメリカン F-86D セイバードッグ(ハセガワ 1/72)
- 092 マクダネルダグラス OA-4M スカイホーク(フジミ 1/72)
- 106 三菱 F-2A(ハセガワ 1/72)
- 122 松本州平 × 新納忠大 『ナナニイの魂』の本質対談









『ナナニイの魂』製作現場と作品を生み出すツール

SOUL OF THE 1/72 SCALE WORKSHOP

1/72とは思えない精度を持った新納氏の作品を生み出すのが、愛用のツールたちだ。と言っても、そこまで特別な工具はナシ。どこにでもあるような道具でハイレベルな作品を生み出す……それもまたナナニイの魂あればこそなのだ



製作スペース全景

作業机はL字形に配置。工作と塗装は窓際の机で行ない、右側の机は工具や資材を置いたり、積みプラを眺めながら次回作の構想を練ったり、完成品で遊ぶ空間に使っている。エアブラシでの塗装時は窓に小型換気扇を嵌め込む



メイン製作台

目線の高さと合わせるために一段収納箱を小型の作業台にしている。引き出しには製作時に出るゴミを落とし、製作後にまとめて廃棄



切断工具

チエスト用切断工具。胴体などの大きなパーツはシモムラアレックのハイパーカットソーを使用。数々の戦を乗り越え刃こぼれも激しいがまだまだ現役。妖刀と化しつつある。パネルの開口はタミヤのモデラーズナイフがメインツール。パワー作業により先端がどんどん欠けるので、ひとつのキットに替刃をワンセット使い切るつもりで



彫刻刀

彫刻刀は以前は各種サイズをそれぞれ揃えていたが、愛用していた製品の廃版を契機にゴッドハンドのスピンブレードに乗り換え。整理整頓もしやすい



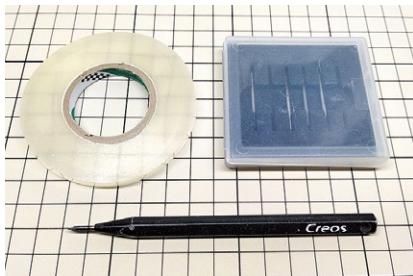
エッチングベンダー

エッチングベンダーはすべてタミヤ製。デカールピンセットもベンダーとして活用している。実際にはエッチングバーツよりも伸ばしランナーの曲げ加工が多い。船細工の様に熱い状態の伸ばしランナーをつまんで好きな形に加工する事もできる



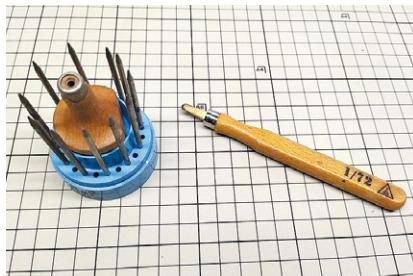
小物保持道具

小さなパーツを保持するための工具。タミヤの逆作動ピンセットと釣具屋で入手した名称不明の工具(鉗子?)。後者は軽量で取り回しがしやすく、大変重宝している



スジ彫り用チゼル

スジ彫りはGSIクレオスのラインチゼルが主力。他社製品も購入しているが、これが自分の手の力や運び方に一番適している。刃の管理用に別売りケースが便利。ガイドテープはハイキューパーツの6mm幅を使用



リベットツール

リベットツールはSBSのリベットルーラーと彫金用のタマグリ。他に適当なニードルも使用する。SBSのルーラーはガタが少ないのでフリー手でも歪みにくく、気持ち良く製作できる



オモリ

板鉛とガン玉。前輪式の機体を各部開口して製作すると、オモリを詰める空間が無くなってしまうことになりかねない。なので限られた空間になるべく詰め込む。本書に掲載した機体達も意外と重かったりする



ハンダ

各種ハンダ。配管や配線は基本的に伸ばしランナーを使用するが、曲面や凸凹のあるディテール面に沿わせたい時はこちらが使いやすい



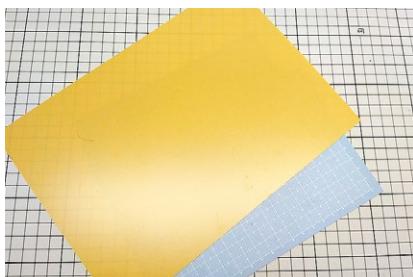
1/700装備品セット

1/700スケールの艦船用装備品セット。画像は一番重宝しているシールズモデルの物。砲尾部分は潤滑系統のフィルターやバイパスバルブに、通風筒は配管のエルボー部分に、ボートは裏返して加工すればエアスクープに、マントレットは弾帯や内装材に……



プラ材その1

開口部の縁の工作にはエバーグリーンの100~102番があれば充分です



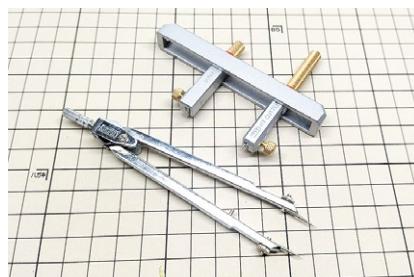
プラ材その2

とにかく色々あると便利です



各種マスキング材

キャノピーマスキングはこれがないと作れない程の重要度。アイズプロジェクトのミクロンマスキングテープは、いわゆる三菱スペシャルと呼ばれるパネルの塗り分けや、ファントムの排気口周りのシルバーの塗り分けなど、飛行機模型で活躍する場面も多い



サークルカッター

円の切り出し工具。NT円切りカッターは金属製でガタが少ないので保管時は折り畳んで、ニードルと刃が内側に収納されるので怪我の心配がないのが良い。0.3mm程度ならディバイダーを用いて切り出す



1/72 SCALE ACTUAL SIZE!!



HASEGAWA 1/72 MITSUBISHI MU-2S

SWORD 1/72 HAWKER BEECHCRAFT U-125A

HASEGAWA 1/72 SIKORSKY UH-60JII RESCUE HAWK

FUJIMI 1/72 BOEING VERTOL KV-107IIA-5

※このページに掲載されている模型はすべて原寸大です

MITSUBISHI MU-2S



三菱 MU-2S
ハセガワ 1/72 インジェクションプラスチックキット
HASEGAWA 1/72 MITSUBISHI MU-2S
Injection-plastic kit

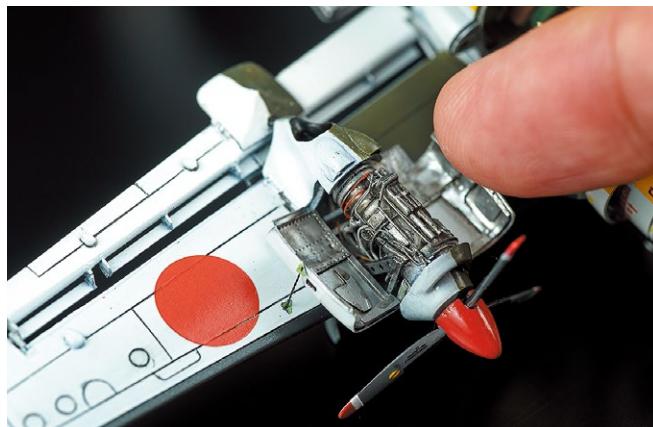
「ゼロ戦を作った三菱のビジネス機」として人気を集めたMU-2双発プロペラ機に、ドップラーレーダーを搭載したS型をキット化したものの。1973年初出とだけあって流石に時代を感じさせる中身で、中央キャビンの内部はがらんどう。しかし、長く突き出た機首やわずかに垂れた主翼など、MU-2Sの特徴をよくおさえた内容で、50年弱経った今なお再び生産され続けるほどの人気を誇るキットでもある。2020年11月に、同スケールの牽引車を同梱した限定版が発売されたばかり







HASEGAWA 1/72 SCALE MITSUBISHI MU-2S



ハッチオープンこそ儀士道の本意
薩摩隼人の魂を学ぶべし

ハセガワの1/72 MU-2Sと死合って参りました。なぜこのような相手とまみえたか。それは単に「UH-60とU-125、バートルとMU-2の自衛隊救難機新旧コンビをペアごとに全機揃えてえな~」という思いつきからです。他のはなんかボロボロと作っていたものの、MU-2は手元になかった。これはなんともケツの座りが悪い……。そういうわけで、まずはやってみようということになった次第。

と、スタートは思いつきではあったものの、名高い薩摩の郷中教育では「ハッチオープンこそ儀士道の本意」と教えられると聞きます。確かにキットの部品を切り開き、薩摩の軍法を学べば、強い精神も育まれるというもの。そもそもハッチを開くということは、多くの場合キットの外板パーツを切開することになり、一度踏み出せば二度とは戻れぬ冥府魔道。これにより、強い精神を育むことができるわけです。また、ハッチをオープンするということは扉を開くこと、即ち文明開化へとつながると言います。1/72の飛行機をあちこち開けて作ることは、まさに維新志士の志を継ぐことに他ならないわけです。「本当か?」と疑いたくなった御仁もおるかと思いますが、やってみると自然と「ああ、こういうことか……」とわかるのです。

というわけで、バカバカあちこちのハッチを開き、中身を妄想も交えつつ作ることで、ハセガワ 1/72 MU-2を通してナナニイの魂を無事学ぶことができました。戦闘機に比べると地味な救難機ですが、色はむしろこっちの方が派手。まっことよかにせでごわす。UH-60もバートルもU-125も全部完成しておりまして、並べて眺めれば満足することしきりありました。



●チップタンク側面の塗料の掠れは、あらかじめ下地に白を吹いてディグロオレンジを塗り、スponジヤスリでやすって表現。やりすぎ注意

●細かい配線の類いは全部伸ばしランナーで製作。1/72くらいの大きさになると、下手な金属線を使うより扱いやすいような気もする。材料費もタダみたいなもんだし、武士は食わねど高楊枝なのである

●フラップはキットから切り離したもの。それ以外の動翼はエバーグリーンのプラ板を切り出した物を貼り付けて使っている

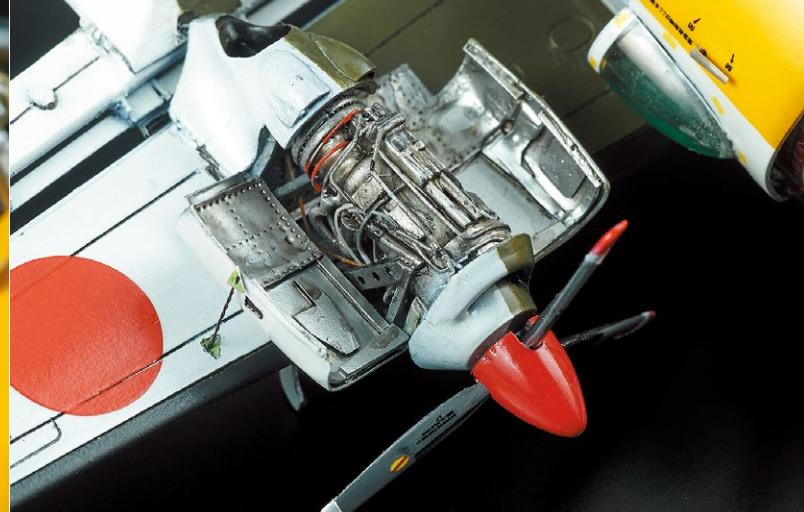
●胴体側面のハッチは、指で曲げたプラ板を使用。モデラーには握力も必要なのだ

●「機体内部などもなるべくプラスチックを使って自作する」のをモットーとしており、本作もこの目標に沿った工作となっている。そのため、機内の補機類なども基本的にプラ材を切り出したものや、他キットから流用してきた部品などで作られている





● 機体の塗装手順は透け防止のグロスブラックを全体に塗布の後、ホワイトを塗装して各部塗り分け、GSIクレオスのGX100スーパークリアーⅢでトップコートしている
(機体色) GSIクレオス GX1 クールホワイト、GSIクレオス XK04 フルコンノーズイエロー+GX4 キアライエロー、GSIクレオス C17 RUM71 ダークグリーン
(翼端オレンジ部) ガイアカラー 015 ピュアオレンジ+タミヤ LP-51 ピュアオレンジ



● 発売から時間の経ったキットではあるが、パーツの合は非常にいいというものがハセガワの1/72 MU-2Sの特徴。主翼の角度はピッタリ決まるし、水平尾翼の薄さと胴体の曲面との合はため息もの。この作品でも、そのあたりは特に手を入れずにそのまま良さを活かしている

● 左側のエンジンカウルは開いた状態とし、内部のエンジンもプラ材や伸ばしランナーで自作した。カウル内側にもフレームやリベットを追加していることに注目

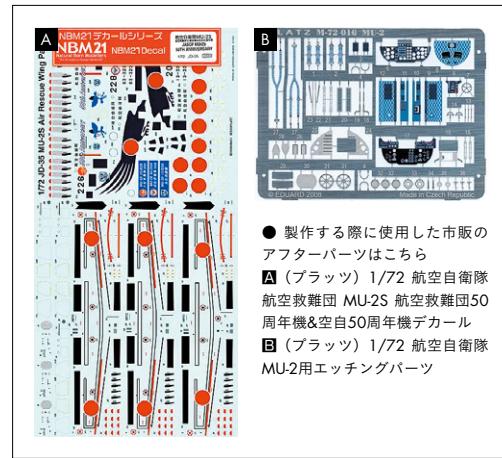
● プラスチック製の自作部品をなるべく使うのがモットーではあるが、プラスチック製のアフターパーツである「1/72 航空自衛隊 MU-2用エッチンググレーディングパーツ」も併用。柔軟に戦いを進めるのも、薩摩隼人の心得である

● 機体のマーキングには、エッチングパーツと同じくプラスチック製の「1/72 航空自衛隊 航空救難団 MU-2S 航空救難団50周年機&空自50周年機デカール」を使用。航空救難団 浜松救難隊所属 226号機のマーキングを再現した

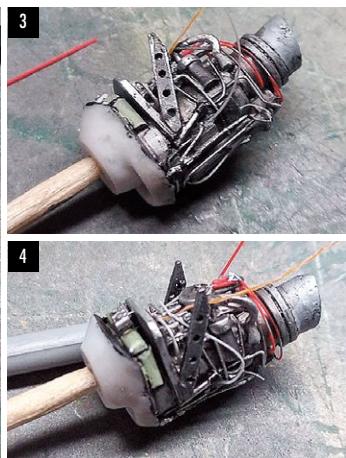
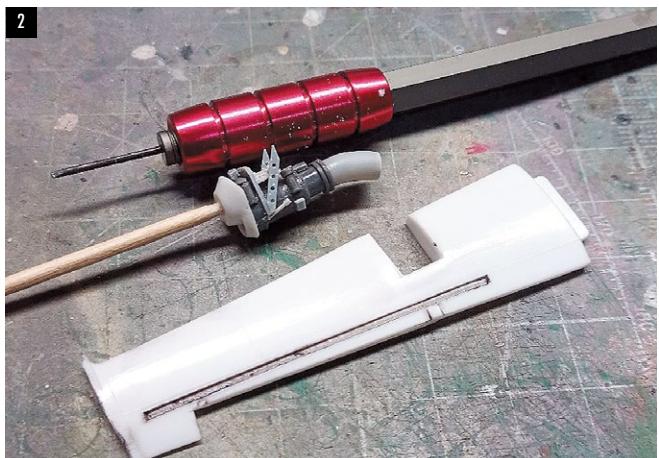




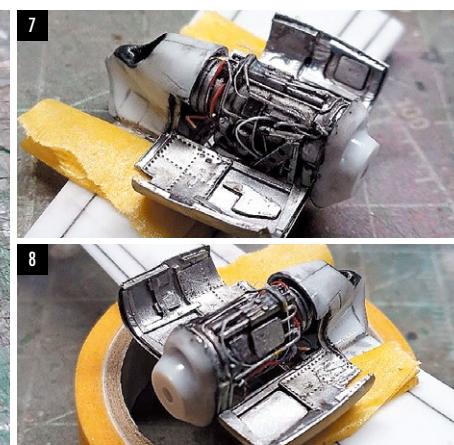
1 製作開始！ ということでまずは、機体全体のパーツをマスキングテープで仮組みしてから様子見。主翼の角度もバシッと出るし、胴体の丸みもいい感じだし、そのまま作っても全然イケるキット。まあ今回は、この後切り刻みまくるわけですが……



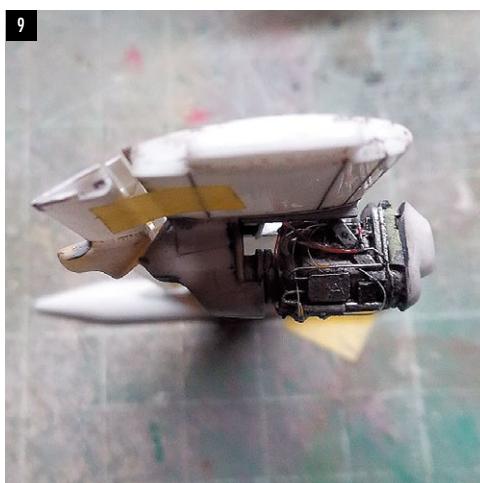
- 製作する際に使用した市販のアフターパーツはこれら
 - A (プラツ) 1/72 航空自衛隊航空救難団 MU-2S 航空救難団50周年機&空自50周年機デカール
 - B (プラツ) 1/72 航空自衛隊MU-2用エッチングパーツ



2|3|4 エンジンは市販のキャラクター模型改造用プラパイプ等を使用しベースを作り、細かく切ったプラスチックで補器類を表現した後、伸ばしランナーで配管と配線を施します。太さを変えて表情がつくようになると良いでしょう。主翼上面にはスローラーの溝を掘っておきます。今回はウェーブのHG細幅彫刻刀(平刃)を垂直に立ててカンナ掛けの要領で平行移動させて彫り込みました



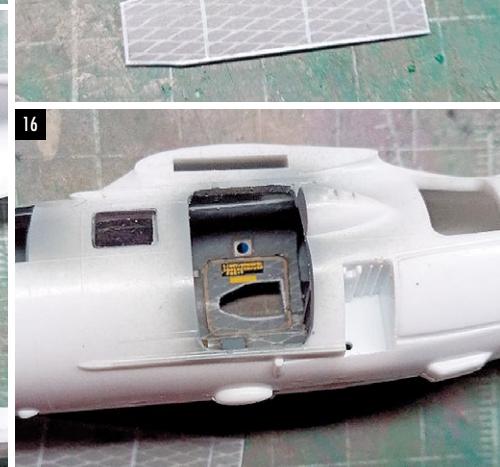
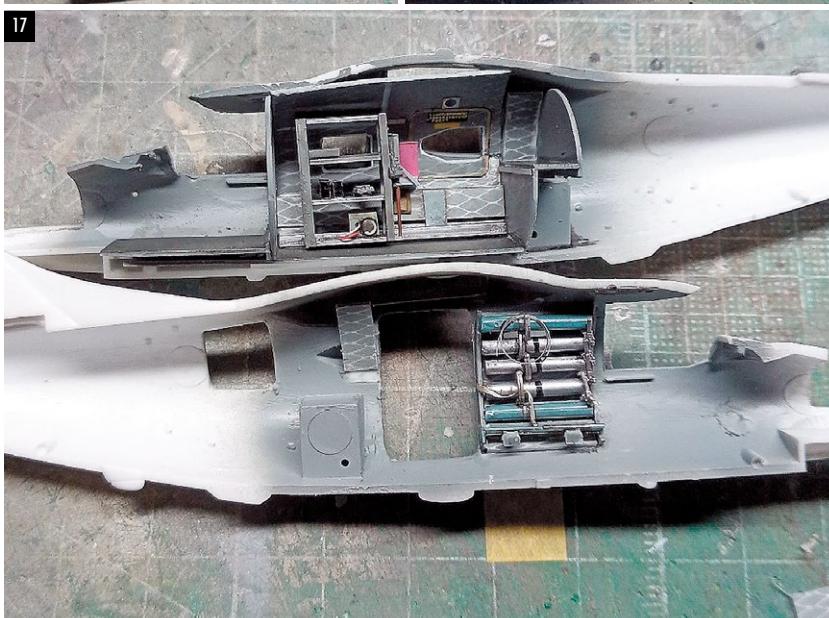
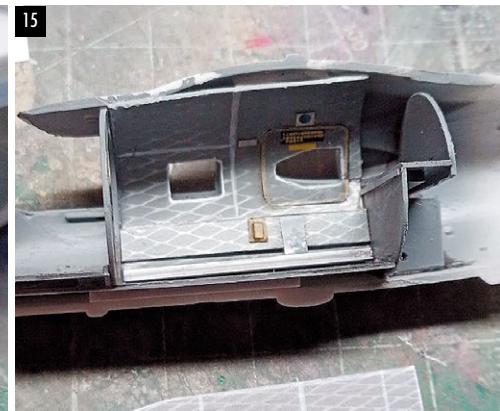
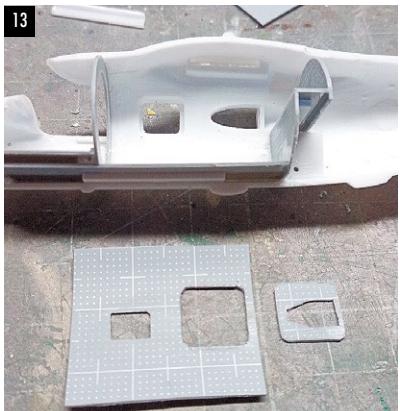
5|6|7|8 エンジン両サイドのカバーは、キットのパーツからヒートプレスしたプラスチック板を加工して製作。外板部にダクトを開口し、その位置に合わせて内部の流路等を再現。ホットセクション部はリベットルーラーを転がしたプラベーパー



9|10 形状が簡略化されている小さなインテーク類も涙滴型にヒートプレスしたプラスチック板で再現。また、構造のムク感を消すためにフラップ端は短冊状のプラスチックを貼り付け。残念ながら両端ともチップタンクと胴体で隠れてしまうわけですが……



11 12 完成した主翼。フラップは見栄えの良い隙間ができる位置で真ちゅう線を用いて固定



13 14 15 16 17 キャビン内は最初に壁面、天面、床面をプラ板で製作します。そしてできあがった空間を探し、それに合わせて座席や小物を作成。胴体パーツの厚みがある分、実機よりも狭くなってしまっているので、最初に内部の部品を用意してしまうと後から入らなくなるためです

18 19 20 計器盤はプラットの塗装済みエッチングパーツを使用しました。お手軽に精密感を得ることができます





ISBN978-4-499-23345-3 C0076 ¥3900E

定価(本体3,900円+税)

9784499233453

1920076039003

